

家庭の暖かさが人の心を強くする

例年より少し暑い今年の「子どもの日」、7年ぶりに以前勤務した県北の富中学校に行きました。7年前に行ったのは、この学校の「閉校式」に参加するためでした。昨年3月には富小学校も閉校し、地域を散策していると、風になびく木々のざわめきや、小川のせせらぎも、何か寂しげに聞こえます。



この度久しぶりに中学校を訪ねたのは、毎年子どもの日に開催される地域の伝統行事「お田植祭り」を見学するためでもあります。五穀豊穡を祈願するこのお祭りは、300年以上の歴史があり、岡山県重要無形文化財にも指定されている歴史あるお祭りです。

お田植祭りを見ていると、見たことある顔が・・・「かっちゃんだ！」 19年ぶりに出会ったのは当時の中学3年生「赤木くん」です。

～かっちゃんたちが教えてくれた人の心の強さ～

当時『大きい集団で育った方が子どもたちの成長につながる』という理由で、鏡野中学校への統合が検討されていました。地域の人たちには、学校を残したいという強い思いもありましたが、少人数の弊害の方が大きいという意見もあり、やむなく統合の方向へ舵を切りつつありました。しかし私は「大きい集団でもまれた方が成長する」という考え方に疑問を持っていました。

当時この学校に8年勤務している教員が言いました。『富の子は進学で津山や勝山に出て行き、家族と別々の生活を送る子も多いけど、私が知る限り高校を辞めた生徒はひとりもいません』

さらに、この学校の卒業生で養護教諭として富小学校で勤務している先生の話です。『津山の高校に出て行くと富の出身だとバカにされる場面がよくあります。その時私はそれを逆手にとって、バカにされると“富じゃもん！”と開き直って切り返していった』そうです。

そして、僅か3人の同級生の中で育ったかっちゃんは、勝山高校に進学しました。体育会を見に行くと、彼は縦割りブロック黄色組の「応援団長」で、百人前後の生徒たちを見事に仕切っていました。幼いころから3人という小集団で育った優しい彼が、大集団を動かす姿に感動しました。

このように子どもたちの卒業後を見ても、小集団で育った子供たちの心が、必ずしも強くなれないとは言えないのです。

ある日の夕方、中3のNさん宅にお邪魔すると、おじいちゃん、おばあちゃん、両親、兄弟姉妹が大きな炬燵に入り、これから夕食をとろうとするとところでした。その時ピンと来ました。『**どんな辛いことがあっても、この家庭の温かさでエネルギー補充できるからだ！**』と。

一方、先日の指導員研修会で玉島警察署生活安全課長の田中さんが『補導した子どもと接すると、その背景には必ずと言っていいほど家庭問題が潜在する。家庭環境が影響しているケースが殆どである』と言いました。

富中学校から地元に帰って、私は生徒たちや先生たちに富中学校で経験した「人の心の強さは家庭の暖かさから作られる」という話をしてきました。この話をかっちゃんにすると、『少人数で育った中学生(自分)は、今は岡山市で頑張っている』と付け加えてと(#^_^#)



運営委員会総会 & 育成指導員連絡協議会総会・研修会



運営委員会総会

5月21日（火）に運営委員会総会、5月23日（木）に育成指導員連絡協議会総会を開催したところ、ご多忙にも関わらず、多くの関係者の皆様にご参加いただき、滞りなく会を終えることが出来ました。大変ありがとうございました。

運営委員会総会では、本年度の活動の重点・活動計画などを熱心に協議していただき、全ての協議事項を承認していただきました。また、協議の中で昨年度より市内各小中学校の「あいさつ運動」に参加していることに好評価をいただき、大変恐縮しましたが、本年度も計画的に実施していく決意を新たにできました。



育成指導員連絡協議会総会

育成指導員連絡協議会総会では運営委員会総会の決定事項を基に、本年度の具体的な活動内容を提案し、皆様の了承を得ることが出来ました。この計画に沿って順次実施していきたいと思いますので、指導員の皆様にはご協力をよろしくお願いいたします。

総会後に行われた研修会では、玉島警察署生活安全課長の田中さんにお話をいただきました。内容は前ページの家庭の教育力の話の他に、「玉島警察署管内の少年非行」という冊子を基に、少年非行の実態を教えてくださいました。それによると、令和5年中の刑法犯の数値は以下の通りだそうです。

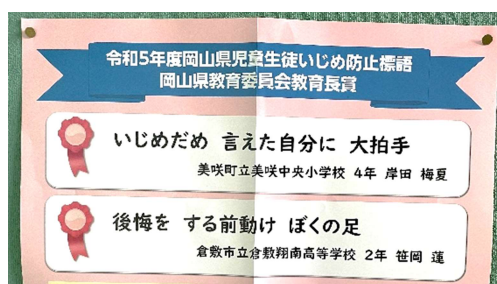
- ・総数は21人で、前年比で1人減少
- ・特別法犯少年の総数は4人で、前年比で1人増加
- ・不良行為少年の補導人員総数は67人で、前年比で37人減少

その他、気になる浅口市の実態は刑法犯少年2人、特別法犯少年1人という結果で、比較的落ち着いているそうです。



育成指導員連絡協議会研修会

令和5年度岡山県児童生徒いじめ防止標語



左のポスターはいじめ防止標語の岡山県教育長賞受賞作品です。

これは、小中各学校に掲示されていたポスターの写真ですが、今年作品にはある特徴があると思いました。

それは「言葉が自分に向いている」ということです。

過去の受賞作品を抜粋してみると・・・

- ☆2022年度 考えよう その言葉 一生残るデジタルタトゥー
- ☆2021年度 「大きらい」を1つ見つける前に 「大好き」をいっぱい見つけよう
- ☆2020年度 その言葉 つぶやきではなく 攻撃です
- ☆2019年度 「かわいそう」 そのひとことが 心をえぐる
- ☆2018年度 子どもだけじゃない。 「見て見ないふり」
- ☆2017年度 「お前は違う。」 だめなんですか。クオーターは
- ☆2016年度 「いじめゼロ」 標語で終わるな 実行へ
- ☆2015年度 とらないで 笑顔を 時間を これからを

などのように、過去の受賞16作品を見てみると、他者に訴えるものが多く、自分に向けた標語は僅か3つでした。今年受賞作のように、みんなが自分にベクトルを向ける感性を持つと、きっといじめは減少していくのでしょうか！